

製品名: G α t1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11866**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	GNAT1
別名	GNAT1; GNATR; Guanine nucleotide-binding protein G(t) subunit alpha-1; Transducin alpha-1 chain
遺伝子 ID	2779.0
SwissProt ID	P11488
免疫原	抗血清はヒト GNAT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

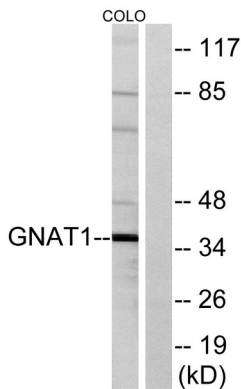
背景

トランスデューシンは、3 サブユニットのグアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) であり、視覚刺激の際にロドプシン

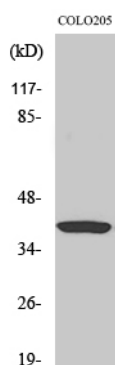
と cGMP ホスホジエステラーゼのカップリングを刺激します。桿体と錐体のトランスデューシン α サブユニットは、別々の遺伝子によってコードされています。この遺伝子は桿体の α サブユニットをコードしています。この遺伝子は他の細胞でも発現しており、ラットの味覚細胞における苦味伝達に関与していることが示唆されています。この遺伝子の変異は、常染色体優性遺伝の先天性定常性夜盲症を引き起こします。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2009年2月]、疾患：GNAT1 の欠陥は、先天性定常性夜盲症常染色体優性 3 型 (CSNBAD3) [MIM: 610444]の原因です。ヌガレ型先天性定常性夜盲症としても知られています。先天性夜盲症は、夜間視力障害を特徴とする非進行性網膜疾患です。機能：グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) は、様々な膜貫通シグナル伝達系において、調節因子またはトランスデューサーとして関与しています。トランスデューシンは、視覚インパルスの増幅因子であり、ロドプシンと cGMP ホスホジエステラーゼ間の結合を担うトランスデューサーの一つです。オンライン情報：Retina International's Scientific Newsletter,類似性：G- α ファミリーに属します。G(i/o/t/z)サブファミリーです。サブユニット：G タンパク質は、 α 、 β 、 γ の3つのユニットで構成されています。 α 鎖にはグアニンヌクレオチド結合部位が含まれています。組織特異性：桿体

研究分野

画像データ



GNAT1 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した G α t1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析